

秋の引地川を遡り、泉の森を訪ねる 2021.10.28



山本 雅博 記

雨天延期となり、予備日の10月28日（木）の実施になりました。コースは桜ヶ丘駅から水源地の泉の森へ、昼食後、大和駅へまで（主として昔の下草柳、上草柳村になります）と長めでしたが、秋晴れの中約8kmを気持ちよく歩くことができました。参加者は22名でした。

引地川は、大和市上草柳水源地を起点とする全長約21.1kmの二級河川ですが、水源から4.46kmは大和市管理の準用河川です。公的には「ひきじがわ」と読みますが、上流では「ひきち」と読むのが一般的です。「引地橋」は、下流域ですが例外的に「ひきち」と読んでいます。

引地川は、大和市上草柳の八手状の谷戸を水源としています。付近の森林より地下へと流れ自然湧水として「大池」「小池」の調整池を経て引地川となっていきます。近年宅地開発等による森林の減少に伴って湧水量も減少し、現在は地下5.6mから給水ポンプでくみ上げています（水源1）。



水源1 泉の森 大池・小池

もう一つの水源は、泉の森「しらかしの池」脇にある側溝から流れ出ているもので、主に国道246号の北側地区の雨水や工場冷却水が集まっています（水源2）。



水源2 排水側溝

3つめは釣堀「草柳園」に流れる地下60mの地下水を汲み上げているもので、釣堀から引地川へ流されています（水源3）。この地下水は災害時の指定水源にもなっています。

桜ヶ丘駅から大和駅西側までの引地川右岸は、米海軍、海上自衛隊の共同使用となっている通称「厚木基地」があり、大和市、綾瀬市にかかり、面積は506万㎡、東京ドーム108個分あります。昭和16年からの相模野海軍航空隊設置に伴う土地買収や、戦後の米海軍利用による騒音被害や墜落事故など現在でも大和市をはじめとする近隣の市に大きな負担になっています。泉の森のある上草柳には昔からの旧家として「七苗七堰」といわれる七つの家がありましたが、移転に伴い今は「墓地」のみが残されています。

また近くには、草柳総鎮守の「熊野神社」、下草柳総鎮守の「山神社」が大切に祀られています。引地川も下水道の整備や自然護岸をつくる大和市の取り組みで、近年清流を取り戻しつつあります。

春や秋、季候のよい時季に引地川の歴史や「現在」に触れつつたどってみてください。



水源3 釣堀「草柳園」